

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



▶南側はこれから見ると
高台に建っていますので
川があるか水はあかさらない。

▲北側周辺
田んぼに水が入りました。

秋になると水
を張った田んぼ
が黄金の甲斐ほ
に変わる。
いよいよ街と四季
の移り変わりさま
見え来るまで、
本音は、お街は
楽しみが多々
いも悩退考を
解消し、脳の
なごみを良くする



2017/10/09



▲愛知医大の
お膳から撮る。
桜が満開のり。

「明るく場所
にいる者は暗い所
にいる者を見る
ことはできない
ひきこもりは眼
らす、平成は貧困
や格差が広がっ
た30年間でもあ
った。
社会の隅々まで
光がある
そんな新しい時代
にしていきたい」

世界遺産・白神山地へと続く
杖田津藤里町の名刺が全国
に知られるきっかけは10年ほど前
に豊かな自然の恵みに関してでは
なかった。町に住む現役世代の1割
近い1000人がひきこもりの状態に
あることが判明した。
そのうちの約半数は40歳以上の入
り手だった。
そこから町の社会福祉協議会には
る取り組みが始まる。就労体験の場
を設け、戸を回して資格取得や
仕事の情報も提供し続けた。
少々の人がひきこもりから脱し、のちに
藤里方式と呼ばれる。
画が実施した全国調査の結果は40歳
と64歳のひきこもりの人は推計6万人
15歳と39歳の約半分より多かった。



2013.06.30

▶愛知医大ドクターヘリの
機が立ちました。
角度をかえて夏に撮る

